

幅広い講演テーマで情報交換

繊維リサイクル技術研究会

廃材由来楽器の分科会を新設

(二社)日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会(委員長・木村照夫京都工芸繊維大学名誉教授)は20

22年12月19日、第145回情報交換会をハイブリッド開催した。大阪科学技術センター(大阪市)会場とオン

ライオンの合計で102人が参加。「こんな話も聞いてみよう」をテーマに3題の講演が行われた。

し、関連商品や洗剤・洗濯機コースの選び方の他、商業用洗濯であるリネンサプライ市場の特長などを解説した。ザ・ウールマーク・カンパニーの商品開発・教育・ライセンス担当マネージャーの西沢智裕氏は、「ウール、循環する繊維」をテ

マに、世界最大のメリノウール生産国であるオーストラリアの羊毛産業を紹介。再生可能で生分解性を持つウールのサステナビリティについて説明した。

同研究会は、アパレル企業や故繊維業者、リサイクル関連事業者、学識者などが加盟し、業界の川上から川下まで幅広いネットワークを構築している。

滋賀県立大学の教授の森下あおい氏は、22年9月に「なんばマルイ(大阪市)で開催した学生主体のイベント「私たちのSDGs」

今回、新たに分科会を設立し、繊維廃材を用いた楽器の創作に乗り出した。楽団「FUB (Fiber Up cycle Band)」

も結成し、3月18日開催の情報交換会では、試作楽器での演奏を披露する予定だ。